

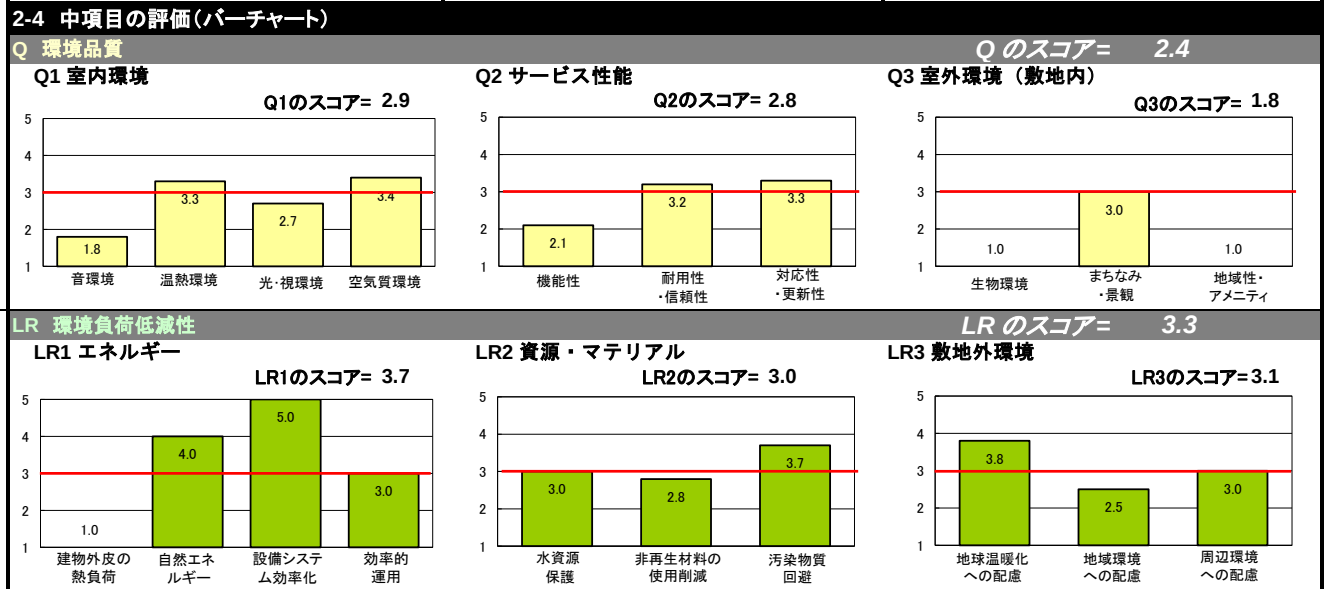
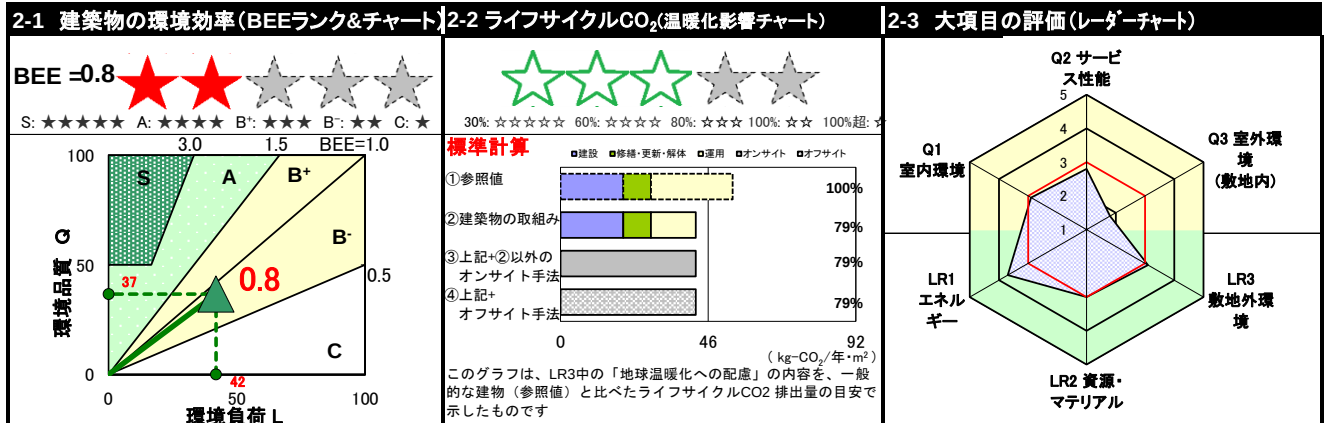


評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム7.0版 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋車両区検修庫	階数	地上2F
建設地	愛知県名古屋市中村区平池町4丁目51-1の一部 他14筆	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	55 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年6月 予定	評価の実施日	2023年9月7日
敷地面積	52,079 m ²	作成者	
建築面積	3,713 m ²	確認日	2024年4月16日
延床面積	4,299 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
広大な敷地の中、複数建物がある中の一つの計画なので、敷地内環境と調和させ、車両区内で働く人の使いやすさ、室内環境に配慮した計画としている。	
Q1 室内環境 光・視環境においては窓を多く設置し、自然光を十分に取入れる計画とした。換気においても、ガラリーを通常よりも多くし、換気量を確保した。 仕上材はF☆☆☆☆を全面的に使用している。	Q2 サービス性能 検修庫内で作業する人々の作業空間にゆとりをもたせ、耐久性、メンテナンス性を考慮した部材や設備機器を選定した。
Q3 室外環境(敷地内) 周囲の街並みに配慮した配置としている。	
LR1 エネルギー 全館にLED照明を採用している。 主な空調対象室には全熱交換器を採用し外気負荷を低減している。	LR2 資源・マテリアル 電炉鋼材を用いることにより、CO ₂ 排出量の削減に配慮した。
LR3 敷地外環境 雨水排水槽を敷地内に設置し、雨水の流出抑制に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

名古屋車両区検修庫

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.5
LR1	エネルギー	3.7	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.05	
2. 自然共生				1.0
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.12	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.012	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	1.0	0.06	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 1.0



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。